

JICAの事業は終わったけど、VVK(※1)は終わらない
～引き続き迷走・暴走・爆走中のオバチャンたち～(Vol. 2)

(2007年12月1日発行)

(1)オバチャンによるクラフト素材ビジネスの巻

ソムニードから注文を受けたクラフト素材は、合計15種類。

金額にして10,000ルピー(約3万円)。

ソムニードによる買い取り日は11月17日。

この買い取り日に向けて、10人のチームを作ったオバチャンたちは、なんとか注文を受けた商品を回収し、きれいに洗ったり、干したり、指定された分量にパッキングしたり、とクラフト素材ビジネスに約20日間かかり切りになった。

もともとソムニードからの注文は8月にはもうわかっている、VVKメンバーからボチボチと商品の買い取り(種を100個持ってきたら10ルピーなど)をしていたのだが、やっぱり買い取り日が近づいて初めてエンジンのかかるオバチャンたち。

ソムニードが注文した素材は、サリーなどの端切れ、果物の種や殻、インドの言葉(テルグ語やヒンディー語)の書かれた空きパッケージ、落ち葉などなど、使われていなくて、ゴミになっているようなものばかり。

こうした素材をVVKメンバーに知らせて、集めてもらい、葉っぱ何枚でいくら、はぎれ何枚でいくら、というように、まずはVVKがメンバーから買い取る。

ほとんどはビジャカパトナム市内でも揃うものなんだけど、中には農村にしかない果物や野菜もあって、オバチャンたちは、生産・物流センター(オバチャンたちが名付け親で、センターは「チャイタニヤ」という名前)に出かけ、農村部のオバチャンたちに、素材を発注したが、なかなか期限までに頼んだものが届かず、また届いたものが腐っていたり、虫食いだらけだったりした。

そこで、11月のある日、農村部のオバチャンたちに、もう一度、ちゃんと注文の内容を伝えようと、村にでかけて行ったVVKのオバチャンたち。

11月17日の買い取り日まであと数日。

村に行く直前まで、あくせくとビシャカパトナム市内で必死に素材を集めているところで、訪れたその村は。。

「なんと、宝の山！」だったのだ！！

(何度も行ってる村なのに、素材を大量に集めてみて、初めてわかる「村で、使われていない素材」の存在。。)

「アタシ、とっても苦労して、ビシャカパトナム市内の市場のゴミ捨て場で、この果物の殻を探したのよ。でも村にはこんなにたくさん、道ばたに捨ててあるわ。」

「このカシューナッツの木の枯れ枝なんて、市内にはほとんど落ちてなくて、木に登って枝を折って取ろうとしたら、木の持ち主に怒られたの。」

「アーモンドの殻を探すために、バスを乗り換え、乗り換え、市外の公園まで拾いに行ったのよ。」

というVVKのオバチャンたちに村のオバチャンが一言。

「え、そんなものが欲しかったの？そーいえば、前もそんなこと言ってたわね。もっと早くに、何をどれだけ、いつまでに、って言ってくれれば、アタシらでもっとたくさん集めておいてあげたのに。。。」

VVKのオバチャンたち、村のオバチャンに発注したと言っても、いくらで買い取るとか、いつまでにとか、曖昧に伝えておいたものだから、村のオバチャンたちも別に必死になって、11月17日の買い取りに間に合わせて素材を集めておこうなんて思っていなかった。「遅れたら、遅れたで、いいでしょう。」くらいに思っていたのだった。

これからはきちんと発注表と価格表を付けて、期限厳守で、村に発注することを約束して、村を去ったVVKのオバチャンたち。

そして買い取り当日。。

なんと前日までパッキング(ソムニードの注文では、100グラムとか、4個とかという単位で、素材ごとにパッキングすることになっていた)していたオバチャンたち。

そのパッキングの機械が壊れるハプニングも。

もっと早くから準備しておけば、いいのに。。

やっぱり直前にならないと物事は進まないらしい、さすが。

結局、11月17日夜の7時半まで、オバチャンたちがドキドキと見守る中で、買い取りの際の品質チェックを厳しくおこなったソムニード・スタッフ。

結局、この日、ソムニードが「合格品」として買い取った品物は、2万4千円。

オバチャンたちから歓声が！

「3万円にはわずかに及ばなかったけど、こんなに買い取ってもらって嬉しいー。」

「金銭出納帳をつけていたから、もう明日にはいくらのお金が貯ったかわかるわー。これはざっと計算しても1万円近いお金があるはずよー。」

さすが金勘定の早いオバチャンたち。もっとも以前、失敗したサリーブジネスでは、金銭出納帳をつけていなかったから、損をしていても一体その金額がいくらになるかもわからなかったのだ。

今回、素材を集めて、それを在庫管理帳につけたり、メンバーから買い取る値段をつけて、買い取る度に帳簿をつけたり、素材をきれいに洗ったり、パッキングしたり、という賃労働の管理もすべてオバチャンたちの手で進められた。

ソムニードのスタッフは、一連のシステムを作り、その場、その場で、具体的に一緒に帳簿を付けてりして、だんだんオバチャンたちだけで出来るように指導していった。

日本へ素材を郵送するトレーニングも、郵便局のルールを説明して、どのように梱包して、どんな手紙をつけるか、といったマニュアルも作った。

今回の買い取りで、素材ビジネスの一流れをようやく把握出来たオバチャンたち。

まだ郵送が済んでいないため、正確な利益は出ていないが、おそらく1万円近いもうけは見込めそう。

単なる賃労働者としてしか働いたことのないオバチャンたちが、素材ビジネスを通じて、具体的な商売の方法を身につけていく第一歩となった今回。

オバチャンたちが商売のルール、システムを身体で覚え、おまけに利益を出してゆくまでの道のりはまだ始まったばかり。

しかし、今回の素材ビジネスで儲けた1万円は、今までのような賃労働者ではなく、経営者としての自信をオバチャンたちに与えた。

素材ビジネス担当オバチャン:「儲かったって、損したって、このビジネスはVVKのビジネスなんだから、まだまだ途辞めたりしないわ。アタシたちのVVKに定期的に儲けが出るまでやるわよー！！」

ソムニードの新たな注文にこたえるため、今日もせっせと捨てられているような素材を集め、鉛筆をなめながら、細かい帳簿づけに格闘しているオバチャンたちであった。

(2) 半期に一度の会員総会の巻 ～VVKの自己資金だけで開いた初の会員総会～

誰だって、一度ついた習慣ってなかなか変えられない。

「○△がよいということは、わかっているけど、続けて出来ない」そんなことは私たちの日常でもいっぱいある。

ヨガをするといい、毎日30分でも歩くといい、酒の量は減らした方がいい、甘いものも控えた方がいい、そんなことは百も承知だけど「できな～い」のが現実。

VVKのオバチャンたち、過去3年間のプロジェクトでSHGの運営能力向上トレーニングをこなしてきた、SHGのパフォーマンスを向上させてきたのだが、それを維持してゆくのは、タイヘン。

10月24日の今年度2回目にあたるVVK会員総会に先駆けて、9月末からVVKに加盟する約30のSHGのうち、24のSHGで、VVKとソムニードが合同モニターをしたのだが、その結果は惨憺たる・・・。

10月24日までに、モニターをした24のSHGのうち・・・

- ・毎月SHGの金銭出納帳をつけているグループ:11
- ・毎月、SHGミーティングの議事録をつけているグループ:14
- ・VVK月別執行委員会の議事録を共有しているグループ:0
- ・VVKが始めたサリー小売業の最新の収支を知っているグループ:18
- ・VVKによるクラフト素材ビジネスの進捗状況を把握しているグループ:0
- ・VVKによる金銭出納帳トレーニングを受けたグループ:18
- ・VVK執行委員がモニターに訪れたグループ:12

これのモニターでわかったこと:

「SHGやVVKにとってよいことほど、継続するのは難しい」

しかし、転んでもタダでは起きないオバチャンたち。

このSHGモニターの数字を見て、会員総会では、SHGのパフォーマンスを向上させ、それをVVKの銀行などの商売繁盛につなげるためには「どーしよー!？」と話し合った。

△▼その後のVVK オバチャン便り▼△

毎度のワイワイ、ギャーギャーの議論の末。

- 1) 各 SHG の損益勘定表を年度ごとにつくり、各 SHG の健康診断(儲かっているか、儲かっていないか)を必ず行うこと。損益勘定表づくりに必要な指導員のフォローアップ研修を行うこと。
- 2) VVK 執行委員会のメンバーが毎月の SHG ミーティングをモニターし、その際、VVK のクラフトビジネスや銀行の業績などを随時、報告すること。

まずはこの2つが決定。

実は、この会員総会、VVK 加盟メンバー間の情報共有をサボっていた為、3分の1の定数に満たず、総会は不成立という結果に。

総会のために1週間まえから、執行委員会メンバーは夜の6時、7時まで VVK 事務所に居残って、VVK の四半期会計報告と事業報告の作成、VVK 銀行の損益勘定表、SHG モニタリングの成果報告、VVK 加盟 SHG の損益勘定表のグラフづくり、など数字や図で一目でわかる総会資料をせっせと作っていた。

また今回は、ソムニードからの総会資金の援助はなく、椅子やマイクロを業者から借りたり、総会参加者への交通費を払うのも、すべて VVK 自己資金から捻出した。

「総会」イコール「会計と事業報告」が、DNA に焼き付いてきたオバチャンたち。

VVK 設立後、初めて自己資金で開いた総会。

司会進行、質疑応答のすべてを、オバチャンたちだけで、慣れた様子で進めていった。

こーいう総会が「フツー」の行事になってゆくんなんてスゴイ、と目をウルウルさせるソムニードのスタッフであった。

(注)

※1VVK:2005 年に発足したビシャカパトナム市内スラムの女性によるSHG(10~20 人の女性による貯蓄と小規模融資を行うグループ)が集まって作られた連合体組織。会員数は現在、約 600 名。

▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲

★VVK事務所より★

11 月末 JICA インド事務所からインターンの方が VVK 事務所を訪れました。インターンの彼女がオバチャンたちにある質問をしました。「もしソムニードが明日から、もう VVK に事務局経費も支援できないと言い、ソムニードの事務所をたたんで、どこかに行ってしまったらどうしますか？」と。オバチャンたち、ちょっと考えた後、「そうしたら一部屋の小さな事務所を借りるか、自分たちで掘っ立て小屋でも建ててそこを VVK 事務所にするわ。」、「そーねえ、10 月の会員総会が自己資金で出来のだから、あんな風にお茶もお菓子も参加者に出さない感じで、支出を切り詰めて VVK を運営すればなんとかなるわ。」、「それに 11 月の VVK 銀行では、取引高が 120 万円をこえたしね。」という具合に、誰も VVK を辞めようなんて言わなかった。そんなオバチャンたちに感動してビシャカパトナムを後にしたインターンの方。今度、彼女がビシャカパトナムに来てくれる時までには、もっと VVK を大きくしくからね、またおいでね。とオバチャンたちはインターンの方を見送っていました。

▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲▽▲